

代表的な 病気と害虫

植物を育てるには、病虫害がつきものです。症状を見ながら、的確な処置をしましょう。

こんな症状がでたら… 病気や害虫の対応は

■ 病気

灰色かび病(3~12月)

若葉やつぼみ、花弁など柔らかい所が染みのように変色し、茶色になると腐ります。さらに進むと灰色のフワフワしたカビが発生します。この胞子が次の病原になりますので、すぐに取り除きましょう。ベンレート、トップジンM、スミレックス、オーソサイドを散布します。



軟腐病(4~10月)

土中の細菌が傷口から侵入し、発生します。地面の際や地下部分が腐り、異臭がします。残念ながら、薬剤の効果はありません。他に伝染しないよう、処分して下さい。

うどんこ病

ベゴニアやカエデなど葉に白い粉状のカビが発生して、やがて枯死します。トップジンM、モレスタンを散布します。

■ 害虫

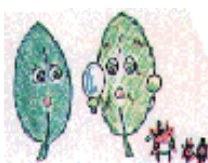
アブラムシ(春と秋に多発)

冬越しは黒っぽい体で、春になると羽根がつき移動します。若葉、新芽、花弁につき、吸汁して植物を弱らせ、変形させたり、ウイルスを伝染します。マラソン乳剤、スミチオン乳剤を散布するか、オルトラン粒剤などの浸透性のある殺虫剤を土に施します。



ハダニ(4~10月)

古い葉ではないのに、色つやが悪くなったり、かすれ模様が出てきたら、裏側にハダニが潜んでいます。多くの草花、庭木、観葉植物に発生します。ニッソラン、モレスタンなどの殺ダニ剤を散布します。



オンシツコナジラミ(5~10月)

葉裏に小さい成虫がつき、揺らすと一斉に飛び立ち、白い粉を蒔いたように見えます。卵、幼虫、さなぎは半透明で見つけにくい。アクテリック乳剤などを散布します。



カイガラムシ(通年)

貝殻のような殻をかぶり、枝、幹に着き、吸汁します。貝殻の状態のものは、こすり落とします。薬剤駆除は、4月~5月の幼虫がふ化した直後にスミチオン乳剤を、成虫は冬眠期にマシン油乳剤を散布します。



アブラムシは黄色が好き？

アブラムシは、黄色い花に寄って来ます。しかし、アルミホイルのように銀色で反射するものは苦手とか。反射するマルチ(ポリシャイン)などを木の下に敷くと、太陽の反射で果実の色つきが良くなり、またアブラムシも回避できます。反射テープを木の周りにつけても効果があります。専用の防虫ネット「サンシャイン」もコメリで扱っています。その他、ニンニクを根元に置くとか、両面テープを枝の根元に貼ると、アブラムシは根元から上がってくるので登れない(つかない)という方法もあります。

How To 情報

コメリドットコム「HowTo情報」には、DIY情報、住まいや暮らしに役立つノウハウが満載です。

